

## 1. SDGsのテーマ

「だれもが参加できる教育をつくるためにできること」

## 2. テーマを選択した理由

私がこのテーマに興味を持った理由は、日本の英語力の低さに関心があったからです。2023年度版の世界最大英語能力指数ランキングによると、日本は113か国および地域中87位でした。これに対して、私が留学に行った国であるポーランドの順位は13位でした。そこで、日本の英語力の低さに関心を持ったため、今回のSDGs課題のテーマ「だれもが参加できる教育をつくるためにできること」について、17個あるSDGs目標の中で「4. 質の高い教育をみんなに」という目標に焦点を当てて調査をしてきました。

## 3. 留学先での活動計画と実際に取り組んだ内容、調査・観察したこと

到着から約3か月にわたり、インターネット調査や現地で行う聞き取り調査を通して、ポーランドの教育制度やポーランドが質の高い教育をみんなに与えるために行っている学習支援について調査しました。その後約2か月間、これまで調査してきたことをもとに、日本で実施できそうな学習支援について考えました。

到着から1か月にかけては、インターネットでポーランドと日本の教育制度の違いについて調べました。その結果、両国の教育制度は教育費という点で大きく異なることが分かりました。ポーランドの教育制度には、教育費の自己負担があまり一般的とされておらず、子どもの教育は家庭の経済状況による影響を受けにくかったり、学費がほほかからない公立の学校へ比較的簡単（学力面において）に入学することができたりするという特徴がありました。

その後留学から2か月目にかけて、現地の大学生に対して行った聞き取り調査やインターネット調査を通して、「ポーランドが行っている政策や活動の中で、質の高い教育を子どもたちに与える上で何か役立っているものがあるのか」について調査しました。調査では、「ポーランドは子どもの教育のために社会支出を厭わない国だと思う」と話す学生が多かったです。そして例えば、ポーランドには、「ファミリー500+プログラム」という社会政策があることを教えてもらいました。インターネットでさらに調べてみた所、「ファミリー500+プログラム」は、2人以上の子どもを持つ家庭・低所得の家庭・障害を持つ子どもを持つ家庭に対して、子どもの人数に対し500ズロチ（約18,550円）を現金で家庭に給付するシステムだということが分かりました。実際に、聞き取り調査を通じて、この給付金を用いて、兄弟全員が勉強に使える質の高いパソコンを、平等に買うことができたポーランド人学生に話を聞くことができました。さらに、ポーランドはウクライナでの戦争により国を離れた難民の大半を受け入れているということを教えてもらい、難民の教育をサポートするための活動（無料のポーランド語授業など）を、ポーランドをUNICEFが支援しながら行っているということも聞き取り調査を通じて分かりました。

その後留学から3か月目にかけて、ポーランド人の学生や留学生を対象に聞き取り調査を実施したところ、グダニスク大学には「エラスムス プラス」という制度があることを知りました。これは、ポーランド以外のEU加盟国や、ポーランドに隣接するウクライナ、イランやトルコなどの国々に住む大学生が対象になる制度で、グダニスク大学などポーランドの大学へ留学生として住む場合に、生活費をカバーする奨学金を給付する制度だそうです（ポーランドの大学は国立なので学費は無料です）。特にウクライナからの学生は、戦争のため母国で授業を受けることが難しくなったり、出来なくなったりしており、この「エラスムス プラス」という制度には助けられていると聞きました。また、大学だけでなく高等学校への留学に対しても、指定された国からの留学に対して、「エラスムス プラス」が適用するということが分かりました。その制度の対象なる留学生は高校生でも、母国から離れたポーランドでの生活費を賄える奨学金が給付されるそうです。さらに、「エラスムス プラス」の影響を受け、「留学生と授業中に意見交換する機会が増えた」「英語で実施される科目が拡充された」と話してくれたポーランド人学生もいました。

## 4. 活動や調査の結果についての考察、日本（茨城）との比較

到着から留学1か月目にかけての調査より、ポーランドは教育費の多くを国が負担している一方

で、日本は教育費の自己負担が一般的であり、子どもの教育は家庭の経済状況による影響を受けやすいということが分かりました。また、ポーランドは学費がほぼかからない公立の学校へほとんどの生徒が通えることに対して、日本は比較的学費の安い国立や公立の大学に入学するために、高倍率のテストを通過する必要があるということが分かりました。

その後留学から2か月目にかけて行った調査では、「ファミリー500+プログラム」の給付金のおかげで兄弟全員の質の高い学習が実現できたという体験談を聞くことができ、このことから質の高い教育をみんなに提供するために貢献しているシステムであるといえるのではないかと考えました。一方で、聞き込み調査やインターネット調査を通じて、社会問題になっているなどといった有益な情報は得られませんでした。親が生活費や彼ら自身の娯楽代として使うことができたり、高所得世帯さえも給付金を受け取ることができたりするなどといった問題点もあるのではないかと考えました。また、ウクライナ難民の支援について、特にポーランド語の学習支援は、これからの将来を担う子供たちのために、快適な学生生活をポーランドで送る上で、非常に有効な支援活動だと思いました。

その後留学から3か月目にかけて行った調査から、「エラスムス プラス」という制度の存在は、経済的状况に関係なく、ポーランド人が海外留学に積極的になれる理由の一つであると考えました。また、留学生と話す機会の増加は学生の異文化理解能力の育成、英語で実施される授業の拡充は英語力の育成に役立つと考えました。

## 5. 日本（茨城）に提案できること

日本に提案できることについて、留学後半の約2か月で以下の3点を考えました。

まず一つ目は、ポーランドのように無償で教育が受けられる教育機関や制度を増やすことです。ポーランド人の友だちや留学生に日本の教育費について聞いてみると、満場一致でおかしいと言われました。私は、日本では教育費の自己負担を当たり前だと思っていましたが、ポーランドに留学し調査する中で、日本は外国諸国に比べて教育にかかる費用が高いと改めて思いました。

また、日本における経済的困難を抱える子どもたちにもポーランドの「ファミリー500+」のような制度が必要なのではないかと思いました。たしかに、その制度には、給付金を生活費や自身の娯楽費として使うことができたり、高所得世帯でも給付金を受け取ることができたりといった課題も考えられるため、そのまま適用することは難しいかもしれません。しかし、実際にその制度が教育に役立っている家庭があることも事実であるため、「ファミリー500+」のような制度が日本にもつくられるべきだと考えました。

そして、2つ目は日本もポーランドのように、どんな境遇の人でも平等に教育を受けられる国になってほしいということです。ポーランドとユニセフがウクライナからの難民の子どもたちに対して無償の教育支援を行っていることに関してですが、日本はポーランドに比べて難民の子どもたちに対して十分な教育支援が行われていないのではないかと思います。ポーランドには、支援により無償で高校や大学に通うことのできる難民の子どもたちがいますが、日本では難民指定された人であっても、無償で通えるのは日本語学校くらいしかない点は課題だと感じました。

最後に、3つ目は「エラスムス プラス」のように適用範囲が広く柔軟に多くの子どもたちの留学を手厚く支援できるような学習支援も含めたが総合的な教育支援をつくることです。日本は経済的な理由で留学を断念する学生が多いと思います。「エラスムス プラス」は適用範囲が広く、留学したいという気持ちとCEFR（外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際標準）でB1かB2以上の英語力があれば、どんな学生にも適用される制度です。たしかに、日本でも返済不要の給付型奨学金制度を利用して留学する学生がいますが、やはり少数だということが課題だと考えました。

以上実施してほしい学習支援は見つかりましたが、日本はポーランドに比べて、このような制度が必要だなどと意見を述べる人が少ないと思いました。そのためまずは、身近で実施できそうな学習支援としては、積極的に社会に意見を述べられる態度を養うための学習支援などが効果的ではないかと思いました。例えば、学生が、公共の場で意見を発表できる機会などが増えればよいのではないかと思いました。私が将来教員になった際は、声をあげることのできる学生の育成に尽くしたいと改めて思いました。